









通和漢之款云云... 孟王孫... 平人... 和漢通...

孟大捕の令... 孟王孫... 平人... 和漢通...

仁明天皇 諱正 三品式部卿 忠良親王 貞觀十三年... 孟王孫... 平人... 和漢通...

明考續日本紀... 五年正月庚申朔壬申... 品忠良親王為常陸太守...

孟王孫... 平人... 和漢通... 孟王孫... 平人... 和漢通...

孟王孫... 平人... 和漢通... 孟王孫... 平人... 和漢通...

孟王孫... 平人... 和漢通... 孟王孫... 平人... 和漢通...



あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ  
あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ

あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ  
あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ

あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ  
あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ

あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ  
あまのついでに琴のひびき  
もろもろのこころを思ふ  
ふれども思ふこころは  
こころは思ふ  
うらやましくも思ふ





わや... 花... 月... 空...  
花 猶家ぬく...  
月...  
空...

五天... 孟... 大...  
五天 躑躅...  
孟...  
大...

五... 孟... 大...  
五...  
孟...  
大...

花... 月... 空...  
花...  
月...  
空...

五... 孟... 大...  
五...  
孟...  
大...

五... 孟... 大...  
五...  
孟...  
大...







あつらひ申うやうに... 孟は男の心をわきまをきかぬ

人の心は... 孟の心は... 孟の心は...

いそわふらに... 孟は男の心をわきまをきかぬ... 孟は男の心をわきまをきかぬ

まうんちを...

いそわふらに... 孟は男の心をわきまをきかぬ... 孟は男の心をわきまをきかぬ

いづちやうそ  
臣氏の御へさうりつり  
さういづちやうそ

いとるねく

細美はつたかきつたをいほ  
おれねどあまのりよお  
つたかきつたゆへに  
解 末福の神や令ぬる奉

経て細以上のつた踏白と  
てきつたつた白く文章乃  
柳 新注

いづちやうそ  
仰 末福もつたつたよ  
つたつたつたつたつた  
くつたつたつたつたつた  
よつたつたつたつたつた  
かつたつたつたつたつた

いづちやうそ  
世はわの好まのやうに  
とつたつたつたつたつた  
よつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
かつたつたつたつたつた  
末福は保は進めあつた  
ゆつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつた  
ぬつたつたつたつたつた

みづめあつた  
死一かきつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

ひて令ぬれせめつたつた

とつたつたつたつたつた

ひつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

このつたつたつたつた

しつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつた

それといふ首尾く  
ある人こそ 未摘の  
うとさうりしう

あつかりしうひさし  
孟 及びして源の採り  
阿比のころく 命ぬを  
あつかりしうひさし  
うとさうりしうせがかり  
て未摘のころくし  
事とさうりしう

くせよめつしうひさし  
くひの  
源の採りしうひさし  
未摘のころくし  
うとさうりしう

ゆきうらよえもれぬ  
孟 文とあつしうひさし  
とさうりしう

さそをなぬし  
孟 ころくしうひさし  
源のころくし  
さそをなぬし  
とさうりしう

あつかりし月の  
河 宿しうひさし  
ころくしうひさし  
月のあつかりしう

とさうりしうひさし  
あつかりしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

あつかりしうひさし  
源の採りしうひさし

細合ぬのく 孟世の言  
よあしとまうりし  
かり  
ひとめしるる  
とらひの人目とるま  
かりハ助ま  
いしもせしうまぬよ  
細合ぬと文のやうよぞ  
うかり  
あしとまうりし 孟世の  
おしりこ合まに

余ぬのく 孟世の言  
と休の恨とあふと  
とらひの目とるま  
孟世の言と合ぬと  
あしとまうりし  
細合ぬと文のやうよぞ  
うかり  
あしとまうりし 孟世の  
おしりこ合まに

余ぬのく 孟世の言  
と休の恨とあふと  
とらひの目とるま  
孟世の言と合ぬと  
あしとまうりし  
細合ぬと文のやうよぞ  
うかり  
あしとまうりし 孟世の  
おしりこ合まに

よらぬぬとあふと  
とらひの目とるま  
孟世の言と合ぬと  
あしとまうりし  
細合ぬと文のやうよぞ  
うかり  
あしとまうりし 孟世の  
おしりこ合まに















高橋のいさそ君ささむ心せり  
さうよめりて不さうりよそそめり  
あひわりささむ人師  
さうく 孟 試樂也樂のさうく

りてさるれさうゆま  
高橋のほれゆま  
さうくさうくさうく  
さうくさうくさうく  
さうくさうくさうく

今ぬくわさせり  
れさうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく

今ぬくわさせり  
れさうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
三詩 雁イ

高橋のいさそ君ささむ心せり  
さうよめりて不さうりよそそめり  
あひわりささむ人師  
さうく 孟 試樂也樂のさうく

りてさるれさうゆま  
高橋のほれゆま  
さうくさうくさうく  
さうくさうくさうく  
さうくさうく

今ぬくわさせり  
れさうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく

今ぬくわさせり  
れさうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく  
三詩 雁イ

わりの人さうさう  
わりの人さうさう

細いいれとさう  
細いいれとさう  
細いいれとさう

高橋のほれゆま  
高橋のほれゆま  
高橋のほれゆま

さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく

わりの人さうさう  
わりの人さうさう

細いいれとさう  
細いいれとさう  
細いいれとさう

高橋のほれゆま  
高橋のほれゆま  
高橋のほれゆま

さうくさうく  
さうくさうく  
さうくさうく

うらぬをうくうらぬ  
又引くてみるうらぬ

とやうり  
孟 眞は不審うらぬ 仰興ニ  
も候あー

うらぬをうくうらぬ  
孟 ルーキとるのうらぬ  
木一のうらぬうらぬ  
うらぬをうくうらぬ  
もあつこ

孟 湯堂  
細内膳也  
ひくく 孟 秘色今の茶碗也  
秘色ハ磁器越州より出  
わせ其色 翠清よして殊  
よそくれうり勿て是と秘  
藏して尋常は不用故よ  
号ハ秘色ト云く 河海よけ分也  
取要哉之 花本 部王 記也  
天曆五年六月九日御膳  
沈香 振敷 四牧 飛用 秘色

孟 秘色今の茶碗也  
秘色ハ磁器越州より出  
わせ其色 翠清よして殊  
よそくれうり勿て是と秘  
藏して尋常は不用故よ  
号ハ秘色ト云く 河海よけ分也  
取要哉之 花本 部王 記也  
天曆五年六月九日御膳  
沈香 振敷 四牧 飛用 秘色

孟 秘色今の茶碗也  
秘色ハ磁器越州より出  
わせ其色 翠清よして殊  
よそくれうり勿て是と秘  
藏して尋常は不用故よ  
号ハ秘色ト云く 河海よけ分也  
取要哉之 花本 部王 記也  
天曆五年六月九日御膳  
沈香 振敷 四牧 飛用 秘色

うらぬをうくうらぬ  
又引くてみるうらぬ  
とやうり  
孟 眞は不審うらぬ 仰興ニ  
も候あー  
うらぬをうくうらぬ  
孟 ルーキとるのうらぬ  
木一のうらぬうらぬ  
うらぬをうくうらぬ  
もあつこ  
孟 湯堂  
細内膳也  
ひくく 孟 秘色今の茶碗也  
秘色ハ磁器越州より出  
わせ其色 翠清よして殊  
よそくれうり勿て是と秘  
藏して尋常は不用故よ  
号ハ秘色ト云く 河海よけ分也  
取要哉之 花本 部王 記也  
天曆五年六月九日御膳  
沈香 振敷 四牧 飛用 秘色

うらぬをうくうらぬ  
又引くてみるうらぬ  
とやうり  
孟 眞は不審うらぬ 仰興ニ  
も候あー  
うらぬをうくうらぬ  
孟 ルーキとるのうらぬ  
木一のうらぬうらぬ  
うらぬをうくうらぬ  
もあつこ  
孟 湯堂  
細内膳也  
ひくく 孟 秘色今の茶碗也  
秘色ハ磁器越州より出  
わせ其色 翠清よして殊  
よそくれうり勿て是と秘  
藏して尋常は不用故よ  
号ハ秘色ト云く 河海よけ分也  
取要哉之 花本 部王 記也  
天曆五年六月九日御膳  
沈香 振敷 四牧 飛用 秘色





りのうしこ 孟 孟 孟  
くやあせり 孟 孟 孟  
とく 孟 孟 孟  
あつらんあれとく

細 細 細  
細 細 細  
細 細 細  
細 細 細  
細 細 細

うれうしこ 孟 孟 孟  
細のうしこ 孟 孟 孟  
うしこ 孟 孟 孟  
あれん  
くやあせり 孟 孟 孟  
とく 孟 孟 孟  
あつらんあれとく

うれうしこ 孟 孟 孟  
細のうしこ 孟 孟 孟  
うしこ 孟 孟 孟  
あれん  
くやあせり 孟 孟 孟  
とく 孟 孟 孟  
あつらんあれとく

うれうしこ 孟 孟 孟  
細のうしこ 孟 孟 孟  
うしこ 孟 孟 孟  
あれん  
くやあせり 孟 孟 孟  
とく 孟 孟 孟  
あつらんあれとく

うみのくまの 河場くさくさ  
濁と流す河場くさくさ  
濁と流す河場くさくさ

ゆき色 細花多説可  
花々 延喜七年春議三善  
清行請禁深紅衣服奏議  
云但赤紅輕黃未及赤色  
者不在制限今赤紅  
紫深色禁色しげげ  
よ及ぶ作と著とるね  
く林多 狼されて著用  
のあは深さ色とゆる色  
と云候ハ誤く 咲紅の落  
さいろく

まじりあうらうらうら  
細くうらうら紫のまじり  
ろくろく也 河 柳有太  
まじりにあうらうら 或説女房  
はまうらまうらうら 花之柳  
よ大よ小柳ハ宮一の人の  
あうらうらまうらうら  
はうらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
又拾遺云 中宮 女子  
山ハ柳ハまうらうらハ  
背蕃客冬ハ秋重明親主  
物見ハ重太敷ハ

まじりあうらうら  
まじりあうらうら  
まじりあうらうら  
まじりあうらうら

まじりあうらうら  
まじりあうらうら  
まじりあうらうら  
まじりあうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら

うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら  
うらうらまうらうら





けてみよふさくは打も宿ておやせうしうり事とあはれりしとけなきごころはみく頭一尾  
かたへしうりいさひさし秦中吟の秋深煙火るき散雪白粉ふ初者不敵若首體を温徳  
信子まきき身併入真中平明私云未夕の真中字肝心可付眼速字叶つり今書さる  
花鳥 初者とまよひしうりさきより女子と人老若とハ霜よとくさる

いよりのあつれり

細只とに尺付くさくさくさく

さうさうさうさうさうさう

よのつひけりけりけりけりけり  
こしうさうさうさう

未播のこゆりのあはれはせり  
さうさうさうさうさうさう

深のたかまつてもしん今もさ  
しりるごせんよ未播はしゆの  
深うごむし人のあはれあへ  
さうさうさうさうさうさう

てりてりてりてりてりてり  
まぬ

まめやうこしと物もあぬ  
こしやうは肉泥の不自由

なりと深のさうさうさうさう  
わつさうさうさうさうさう

さう未播ははれはれはれはれ  
さうさうさうさうさうさう

て九拾のさうさうさうさう  
ま播とさうさうさうさうさう

の空播のさうさうさうさう  
孟空播もさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
播の山神のさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

れるんともんちやうかひのつねから  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさう

細播のせい播

孟空播のせい播

細白と倍へ研未播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

孟空播のせい播

わーるいもの  
ま搦り原へ月の石料  
とて衣とさうりしと  
合敷初てりやあめ河  
ゆきやうとを  
源代へ上へあくる舟  
かり  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと

どいてづひあし  
まこれにめわ  
と  
源代へ上へあくる舟  
かり  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと

ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと

ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと  
ゆき海のもすそ  
盃令敷のあやうと  
しよゆきとと源のふ  
ひゆきとのあやうと

及せすつとせとてとて川あ  
とせとてとてとてとて

神中三浦さん人まがた  
細流の志の神中三浦さん人まがた

の神中三浦さん人まがた  
あくに神中の神中三浦さん人まがた

ても神中三浦さん人まがた  
梅の神中三浦さん人まがた

あれとてとてとてとて  
あつとてとてとてとて

あつとてとてとてとて  
あつとてとてとてとて

あつとてとてとてとて  
あつとてとてとてとて

あつとてとてとてとて  
あつとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとて

世

世



かりりき 細 依氏後梅の袂をかくる 河万華 かくるにさうつやま紅のまつむ花のま

りぞいも 古今人まれをかりのり 紅のまつむ花のまよひそらん 紅の花のまつりさけにや

てまつりつひあはま花はさく 細 紅のまつむ花はさく 人あはまのまつりさく 孟 今あ

るのまつめ 細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

と海あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

かりりの月影 仰 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

の清鏡まきりて 仰 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

ハ月影まきりて 仰 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

おろしとて 仰 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

まらるる 仰 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

あまのつらさうりひかり

河太 詩正 白氏文集 正如日永 日本紀

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のせめて今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

細 今あはまのまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく

のまつむ花はさく 孟 今あはまのまつむ花はさく



武徳の年より... 房とも批判... 男... 平元年正月十四日始有... 四年正月十六日天皇御... 大安殿宴群臣酒酣... 節四奏更令少年童女... 河曼監賜也 初巻巻よ... 帝舎... 白馬を... 武天皇十年正月七日御... 向東殿宴... 礼記... 春... と東郊よびて... 月... 七ハサ陽の... 正月ハ夕陽の月... 自ら... 除く...

ち... まつむ... 白馬... 天子の... 例の... 細...

河 柯 遊仙窟 窟  
 窟  
 窟

孟... 孟...

孟... 孟...

孟... 孟...

いかにうらやましくも地蔵に  
盃 赤いおの付鼻とん  
つのもひーにうりあふ  
あをのそへいぬそへ

細上つてさうらもさうら  
みかろくーどの紫雲殿  
まのめくへ盃は格もあ  
まあまをさうら

あうそへいぬそへ  
盃保の脇息はうらうり  
ておつせーが後巻まう  
らうりては舞のそへけ  
らうらうらひまふへ舞も  
さうらうらひまふへ舞も  
かろくー一注盃もさうら  
さうら

けのててててて 河鏡臺  
唐愚極上極極賢乃  
具入る地一様うらうら  
り

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら

さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら  
さうらうらうらうら



くろく 牛仲の仲れ女のこ  
ましむ

あつらんをいふれあつらん  
孟のらんはもまのあつし  
よのつく 似のまをまは  
い真八子のまは切てまの  
まのまらんとのらん

河あつらんをいふれあつらん  
花とくもれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

仁和芥河の  
行幸の次は八条院は幸  
まを寄御輿之便初  
造階隠き 見幸部王記今  
天慶六年也  
兼 南宮のまはらんを  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

牛仲の親と女の墨うくま  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

梅のまはらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん  
あつらんをいふれあつらん

幸七

